

週刊 タバコの正体

最近、タバコを吸う人はどんどん減ってきています。特に若い人ほど喫煙率は低い傾向にあり、和工で毎年実施している意識調査でも「一生、タバコは吸わない」と答える生徒が850人近くになってきています。

これは、「タバコなんて何の役にも立たないどころか、発ガン性物質が満載で命が危ない」という認識が浸透してきたからでしょう。それに街に出ればどこもかしこも“禁煙”が当たり前になってきていますから、わざわざ喫煙場所を探してまでタバコを吸うなんて面倒ですからね。

それに、目立たない隠れた場所に設置された狭い喫煙場所で、煙を吸い込んでいる姿を見て「カッコいい」なんて思う人はいないでしょう。むしろ、哀れでかわいそうにさえ思えてきます。

さらに、タバコは410円も出さなければ買えません。わざわざお金を出して、命を縮める事になる煙を吸い込むなんて・・・と思いませんか。

おまけに、タバコを吸うと髪の毛や衣服にそのニオイがしみ付いて、「あっ、この人タバコ臭い」と思われてしまい印象を悪くします。

タバコを吸い始めると、これだけ不利になることがあって、「百害あって一利なし」だということが分かっているにもかかわらず、一旦タバコを吸い始めてしまうと、タバコを吸い続けなければ生活できなくなってしまうのです。

なぜでしょうか。それは、タバコは麻薬と同じように一度吸い始めると“依存症”になるからです。これが“ニコチン依存症”という病気です。

まだ一度もタバコを吸ったことがない人にとって、こんな状況を理解すれば「一生、タバコは吸わない」と思うのは当然なのですが、不幸にも好奇心に負けてタバコを吸い始めてしまう若者がいるのも現実です。一度ニコチン依存になると「しまった、タバコなんか吸い始めなければ良かった」と後悔しても、簡単にはやめられません。

これに対して、タバコを吸い始めない事はすごく簡単です。今のまま普通に生活していればいいだけです。だからね。「タバコなんていらない」って思っていれば、それでいいのです。

産業デザイン科 奥田 恭久